

看護部門年報の発刊にあたって

地方独立行政法人広島市立病院機構となって8年が経過しました。皆さんの医療、看護に対する責任感と熱意により、当法人は、概ね事業計画に沿った運営ができています。

高度で質の高い医療を提供するうえで、看護の果たす役割は大変重要であり、その役割を担う人材の育成が不可欠です。この認識のもとに各看護部等においては、研修をはじめとする様々な活動をされていると思います。

機構を構成する4病院にはそれぞれの役割があり、必要とされる看護の種類も異なります。また、医療を巡る環境の変化は速く、看護にもそれに対応することが求められています。人材の育成等には不断の取り組みが必要です。

このため、看護部(科)においては、看護の理念や基本方針を明確に示し、目標を定め、共通する看護実践力の養成をはじめ、そのしっかりとした基盤の上に立って、病院の役割に即した実践力の養成・向上にも計画的、かつ、創意工夫を凝らした諸活動が毎年度行われているところです。こうした活動は各看護部(科)において主体的に行われておりますが、看護部(科)の在り方や共通する課題について総括的に検討、対応する部署として、平成30年度、本部に看護管理担当を設置し、現在、4つの看護部(科)と協議しながら、各年度の活動方針や活動内容等の充実を図っているところです。

この年報は、各看護部(科)において、目標達成のために実践した、研修や教育活動などを記録するものでありますが、その達成状況の適切な評価を通じ、翌年度の取り組みへと繋げていただければ幸いです。

各年度の成果等については、各看護部長門長のあいさつにある通りであり、看護管理担当においては、勤務形態の試行導入などが進められています。

また、こうした研修等の活動に加え、新型コロナウイルス感染症への対応については、各病院の果たすべき役割に応じて、対応していただいているところであり、深く感謝いたします。いまだに収束が見通せない状況にあり、引き続き、ご自身の心と体の健康にも十分に留意され、対応していただきますようよろしくお願いいたします。

今後とも、機構における看護部の役割を認識し、しっかりとした目的意識をもって、本部の看護管理担当との連携、調整を密にした人材育成や、職場環境の改善につながる看護部の取り組みを期待しております。



理事長 竹内 功